

○緑友会福岡県議団 代表質問 二十八番 神崎 聡

おはようございます。食と緑を守る緑友会・清進福岡県議団の神崎聡です。

今年の十大ニュースが間もなく発表されますが、青色発光ダイオードの研究開発が評価され、赤崎勇氏・天野浩氏・中村修二氏、日本人3人がノーベル物理学賞を受賞されたように、明るいニュースもあれば、広島・大規模土砂災害など、痛ましい事故も入ってくるように思います。また衆議院議員総選挙の結果も大きなニュースとして取り上げられるのではないのでしょうか。

そこで知事、県では毎年年末に「県政十大ニュース」を発表しておられますが、選定過程と、どういった基準で順位づけられているのかお聞かせ下さい。また、いつ発表されるのかお尋ね致します。併せて、今年1年を通じて、知事の印象に残っている出来事はどのようなものがありましたでしょうか。簡潔に挙げて頂ければと思います。

私自身、本年の県議会における取り組みを3つ挙げるとすれば、1番目は、9月定例県議会で、3度目の代表質問をしたことであります。2番目は、九州の自立の会で、政策提言ワーキング・チームの委員に任命され、九州の自立の会の藏内勇夫会長、政策提言ワーキング・チームの松本國寛座長をはじめ、委員の皆さんと同行して、石破茂地方創生大臣に提言書を渡す場に立ち会ったことであります。会議は12回あり、毎回、長時間に渡り白熱した議論となりましたが、私にとって、新たな役割と使命を見いだすことができた、大変素晴らしい経験でありました。

3番目は、6月定例会直後に、国連ハビタット・ナイロビ本部などのアフリカを訪問したことです。環境も文化も違う異国の地でありました。海外に行きますと本当に予期せぬ事・突発的な出来事がいつも起こります。政治家というのは、臨機応変、一瞬で判断する力が必要なんだということを学び、これは体で覚えていくしかないんだという事を実感したんであります。

さて、私は9月定例会代表質問の冒頭で、10月5日にご成婚されました高円宮家典子さまと出雲大社の千家国麿さんにふれました。実は、宮家のご成婚とご出産は、結婚率・出産率に密接な関係があるという統計があります。これは、婚期を迎えた人たちが私たちもあやかりたいという思いからかもしれません。

昨年、ブライダル業界が発表した調査によりますと、全国の結婚式場・ホテルなどで挙式した合計は、日本の婚姻組数70万組の約55%にしかないというものでした。つまり半数近くのカップルが従来型の結婚式を挙げていないということになります。入籍だけ済ませ、結婚式を挙げない理由として「費用がかかりすぎる」、「パターン化した結婚式に魅力を感じない」という2つの理由が大半ということです。

そこでブライダル業界では、一時期、ハウスウェディングやレストランウェディングなどの業態がブームとなりました。それでも頭打ち感があるようで、近頃では、式を挙げずに結婚式気分を味わえ、10万円から20万円で作れるという「写真だけのウェディング」

などが登場してきました。また、昨年ぐらいから、スマ婚や楽婚などの新業態が出てきました。

本県では、社会全体で結婚を応援する気運を高めるため、「新たな出会い応援事業」の実施や、ふくおか結婚応援リーダー養成事業などの取り組みが、徐々に成果として表れています。そこで、人生の一大イベントであるウェディング関連にも一歩踏み込んで、県として応援されては如何でしょうか。

全日本ブライダル協会の主催で、「ふるさとウェディングコンクール」というのがあります。「ふるさとウェディング」とは、地域の魅力を活かした挙式スタイルで、結婚式と披露宴の場所を変えて行い、幸せ感いっぱいのカップルの姿を、地域みんなで祝うセレモニーであります。みんなの笑顔があふれる結婚式の光景を、街中の多くの人たちと分かち合うものであります。特に子供たちに、幸せに包まれた花嫁さんを見せてあげれば、古き良き風習が復活すると思いますし、美しい感動的な結婚式は、子供たちの人生観にも、良い影響を与えるのではないかと思います。

また、各地の神社仏閣、名所旧跡、歴史的建造物や景観の美しい公園などで式を挙げることで、地域の独特な風習や魅力を活かすことができ、かつ地域活性化の一助にも、繋がってくるのではないかと思います。

我が会派の代表質問で水郷・柳川の川下りで、オノ・ヨウコさんの「ラブ・アンド・ピース」の話がありました。私は写真でしか見たことがありませんが、川下り結婚式などは、それを偶然見た観光客の人たちから、「おめでとう」と祝福され、「幸せ感」と「華やかさ」など、街の良いイメージとして印象づけさせてくれるように思います。今月の私の地元添田町の広報誌には、英彦山神宮奉幣殿で挙式を挙げたカップルが掲載されていました。川下りの景観も素晴らしいですが、英彦山に登るスロープカーから見える景色もまた、幸せなお二人には絶景に映ったことだと思います。

また、川崎町には、国の名勝庭園指定、雪舟が築庭した「藤江氏魚樂園」もあります。「花子とあん」で盛り上がった旧伊藤伝衛門邸や「軍師官兵衛」で全国区になりました旧蔵内邸など、県内各地には、利用価値の高い公的施設や歴史的建造物、景観の美しい公園などが数多くあり、四季を通じて様々イベント・祭りもあります。結婚式を挙げるカップルの6割が、庭が見える会場や、眺めの良い場所で披露宴を実施することを希望しております。私は、ウェディングの誘致にはビジネスとしても大きな経済的なメリットがあると思います。本県としてウェディング誘致に乗り出したら如何かと思います。

そこで知事にお尋ね致します。この「ふるさとウェディングコンクール」は総務省・観光庁の後援で開催されています。これは、観光振興と地域活性化という観点から有効なものと考えますので、本県としても積極的に取り組んでもらいたいと思いますが、知事はどのようなご所見をお持ちでしょうか。お尋ね致します。

また、今の結婚式には媒酌人がいない場合が多いようですから、このようなコンクールを通して、結婚する時に、婚姻届の証人欄に知事や自治体の首長さんが直筆のサインをプ

プレゼントするというのも、なかなか粋な計らいで、新郎新婦にとって、良い思い出になるのではないかと思います。

今後、本県の婚姻数を増やしていくには、婚活・街コンなどの結婚支援と同時に、県、自治体、NPO、学校、婚活会社、ブライダル業界、関連企業、メディアなどが一体となって取り組む必要があるのではないかと思います。知事にご所見をお尋ね致します。

ウェディングは「幸せを感じることでできる人生の一大イベント」であります。結婚する二人の新たな門出を祝うというセレモニーや披露の場は、間違いなく、みんなを幸せな気持ちにさせてくれます。

「街の中でウェディングに出会う福岡県」そんな幸福感を実感できる福岡県を目指して頂きますようお願いしまして、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。